



TITLE:

編集後記 (泌尿器科紀要 第8巻第
1号)

AUTHOR(S):

CITATION:

編集後記 (泌尿器科紀要 第8巻第1号). 泌尿器科紀要 1962, 8(1): 84-84

ISSUE DATE:

1962-01

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/112239>

RIGHT:

編集後記

本号には正月らしい 景気のよい話でも書けばよいのであるが この原稿を書いているのは年末でもあるし あまり天下泰平を並べる気分にもならず つい不平不満の方へ ペンが向く。

医療費は法律で きびしく決められており これを値上げする事は甚だ困難で 大騒動のあげく 雀の涙ほどの値上げが認められる。医療費は国民生活に重大な関係があるとの理由で 不当に低く押えられ そのしわ寄せが医者にかかつて来る。ところが鉄道料金とか郵便料等は 比較的簡単に上がり その際に労組等の反対もない。一般国民は 仕方がないと黙っている。これらの料金も国民生活に重大な関係があるのだから 簡単に上げてはならぬ筈だ。近頃は諸物価 殊に野菜等の値上がりが著しいようだ。2倍 3倍との事だ。散髪料等もどんどん上がる。野菜も散髪も必要なものだ。こんなものには統制はないのか。統制のあるものとないものとの関係はどうなっているのか。

大工 植木屋 石工等の公定日当が1200—1800円等と新聞に出ているが この計算では月収4万円程になる。大学医学部を卒業し 何年か経ち 助手になつた初任給は1万数千円である。厚生省がポリオ生ワクチンの実施に際してかり出した医者の1日の報酬は 千円であつた。一人前の医者になるには 長い年月と多大の費用とを要する。その間 給料どころか 授業料や研究費 生活費を出さねばならぬ。それは親からの仕送りより他に方法はない。親がしつかりしていなければ 医者にはなれぬ。然も 医者になつてからの報酬が斯くの如くである。医者になるのは道楽や慈善のためではない。更に病院に於ける勤務医の定員が少い。ストをやらねば定員増加は実現しないのか。又 職場の施設のわるさは驚くべき程だ。その改善も殆ど望まれない。即ち勤務医は 低い待遇 少い定員 不備な設備にて仕事をしているのである。これでは医者に成り手がなくなるのは明らかである。これは政治がわるいのである。又 医者の中でも 比較的上層にある者は 積極的に改革しようとの熱意に乏しい憾みもある。いずれにしても あまりの矛盾や不合理は 社会の乱れる元であり 医者 殊に勤務医や研究医の根元を断つような世の中にならぬように 今から充分の戒心が必要である(昭和37年1月)。

購読要項

1. 発行は毎月(年12回)とする。年間購読者を以て会員とする。
2. 会員は年間料金 1,200円を前納する。1冊料金 120円、払込みは振替口座番号京都4772番 泌尿器科紀要編集部、或は第一銀行百万遍支店宛。
3. 入会申込みは氏名(フリガナ)、住所(雑誌郵送先)、勤務先、職地位、自宅開業の別、送金方法等を御記入の上編集部宛。

投稿内規

1. 原稿の種類は綜説、原著、臨床報告、その他、寄稿者は年間購読者に限る。
2. 原稿の長さは制限しないが簡潔にする。
3. 原稿は横書き、当用漢字、平仮名、新仮名使いを用い、片仮名には括弧を要しない。400字詰原稿用紙を用いること。附表、附図はなるべく欧文にすること。
4. 文献の書式は次の如くする。著者名：誌名、巻数：頁数、年次。
例。中野：泌尿紀要、1：110、昭30。Lazarus, J. A. : J. Urol., 45 : 527, 1941.
5. 300語以内の欧文抄録を記し、之には欧文の標題、所属機関名、ローマ字著者名を附け、なるべくタイプライターを用いること。希望の場合は当編集部にて翻譯します 抄録用の原稿を送ること。翻譯の実費は申受く。
6. 掲載料は4頁迄毎頁 600円、それ以上の頁、アート頁、図表、写真は実費を申受ける。別冊20部を無料贈呈、それ以上は実費を徴収する。この場合には予め希望部数を申込むこと。特別掲載も考慮する。
7. 校正は初校のみ著者校正とし、再校以降は編集者が行う。
8. 原稿送り先は京都市左京区聖護院 京都大学病院 泌尿器科紀要編集部。